

1. 件名:福島第一原子力発電所におけるALPSスラリーを貯蔵している高性能容器(HIC)の放射線劣化に関する追加調査等の実施に係る面談

2. 日時:令和3年3月17日(水)13時30分~14時30分

3. 場所:原子力規制庁 18階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

大辻室長補佐、知見主任安全審査官、高木技術参与

澁谷企画調査官、市森係員(テレビ会議システムによる出席)

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当3名(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、2月22日の特定原子力施設監視・評価検討会における原子力規制庁からの指摘事項を踏まえ、高性能容器(HIC)の放射線劣化に関する追加調査等の実施について、資料に基づき主に以下の説明があった。
 - スラリーを貯蔵するHICを格納しているボックスカルバート外面からの線量測定を3月16日に実施した。その測定結果と2017年及び2018年の原子力規制庁による同様の測定結果との比較から、両者の測定条件がほぼ同等であるとすると、有意な変化は見られなかったと考えている。なお、今回のGM管による測定値に過去の原子力規制庁による測定値と大きく差があることについては、現時点で理由は特定できていない。
 - 今後、HIC内スラリーのサンプリング及び密度測定を行い、2018年に東京電力が実施した調査結果との比較を行うことで、スラリー沈降の経時変化を確認していく予定である。
 - また、上記の調査結果から、これまでの想定より早期にHICの積算吸収線量が5,000kGyに到達し、スラリーの移替えが必要になる場合に備え、試験的に移替えを実施することを計画している。
- 原子力規制庁は、東京電力より確認された過去に原子力規制庁が線量測定を実施した際の測定条件について回答するとともに、線量測定の結果に関する議論を3月22日の特定原子力施設監視・評価検討会で行う旨を伝えた。また、HIC保管開始時の線量測定結果と今回の測定結果との比較評価を示すことを求めた。

6. その他

資料:

- 高性能容器(HIC)の放射線劣化に関する追加調査等の実施について

以上